

## 目次

## ★第25期事務局★

## ★会費納入のお知らせ★

## ★新著・新編著発行時のお願い★

## 1. 日本労働社会学会第25期第4回幹事会議事録

## 2. 2013年度大会に向けてプレ・シンポジウムが開催されました

## ★日本労働社会学会事務局（第25期）★

〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 拓殖大学政経学部

中川 功（なかがわ いさお）研究室気付

TEL/ FAX: 03-3947-9174

E-mail: [laborsociology1988@gmail.com](mailto:laborsociology1988@gmail.com) 学会HP: <http://www.jals.jp/>

（学会ホームページがリニューアルされました。気が付いた点などお知らせください。）

## ★会費納入のお知らせ★

学会費の納入は下記口座までお願いします。

【郵便振替口座】口座番号：00150-1-85076 加入者名：日本労働社会学会

年会費 学生・院生会員：6,000円 一般会員：10,000円

会費減免制度については、下記URLをご参照ください。

<http://www.jals.jp/discount/>

## ★新著・新編著発行時のお願い★

会員のみなさん、新著や新編著を出された方はWeb担当の吉田宛てに連絡くださるようお願いいたします。新装開店の学会Webで紹介するとともに、本学会の業績把握や奨励賞候補作の選定に資するべく、情報発信を強化していきます。

## 1. 日本労働社会学会第25期第4回幹事会議事録

出席者：橋本、中川、京谷、小川、小村、大重、園田、鷺谷、呉、村尾、勝俣、戸室、大西、吉田

## 1. 第25回大会準備状況について

## (1) 大会会場・工場見学

園田幹事より大会の準備状況についての報告があった。大会会場については東北福祉大学のステーションキャンパス6階に教室が確保できたこと、および工場見学については交渉先との日程があわず、現時点でまだ決定できていないことなどが報告された（事務局注：その後開催校のご尽力により見学先は決定いたしましたのでご報告させていただきます）。

## (2) 大会開催補助金の扱い

既に幹事会より開催校には大会開催補助金として10万円が支給されているが、前開催校の大会費用残金については、そのまま開催校に引き継ぐことが確認された。

## (3) 第25回大会プログラム(案)

大重研究委員より、I～VIのセクションに分かれて19の自由論題報告がなされること、およびその時間配置と司会者の割当案が提示され、了承された。

## 2. 委員会・担当業務報告

## (1) 『年報』編集委員会

呉編集委員長より、『年報』第24号の編集状況が示され、9月15日に東信堂に全原稿を引き渡し、11月8日までに納品される予定であることが報告された。

## (2) 『労働社会学研究』（ジャーナル）編集委員会

小川編集委員より、2名より投稿があり、現在審査中である旨が報告された。

## (3) 研究活動委員会

①本年度大会のプレシンポジウム：当日実施されるプレシンポについて京谷幹事より報告された。

②学会奨励賞について：選考委員長藤田栄史会員が健康上の理由から大野威会員に選考委員に変更されたことが報告された。また、現在選考中の著作について紹介がなされた。

## (4) 関西西部会

とくに活動は無し。

(5) 労働調査等プロジェクト等検討委員会

新しい提案、動きは無し。

(6) 社会学系コンソーシアム

社会学系コンソーシアム通信第17号が送付された旨が報告された。

(7) 社会政策関連学会協議会

9月28日に東京大学で「雇用と社会保障におけるナショナルミニマム」をテーマとしたシンポジウムが開催されることが報告された。

(8) 会計担当

①委託業者の会計処理問題：会計や名簿の管理を委託会社でデータベースの管理に不行届きがあり、退会者に請求書が送付されるなどの混乱や問題が生じていることが報告された。中川事務局長、小村会計担当、鷺谷前会計担当で、当該の企業の責任者と話し合いが行われる方向で調整されることとなった。今後の状況によっては、コスト増にはなるが他の会社への委託の変更も考えることとなった。

②定年退職者1名より会費減免の申請が出されており承認された。

③前年度未納者で逝去された会員がおり、遺族より会費納入の必要についての問い合わせがあったが、支払いの必要なしということが確認された。

3. 事務局

(1) 国会図書館からの問い合わせ

国会図書館より本学会の「通信」がオンライン資料収集制度の対象となっているので、納入の手続きをしてほしいとの連絡があったが、「通信」は原則会員を対象としているために相応しくないのではないかという意見が出て、国会図書館に問合せることとなった。

(2) ジャーナル電子化にともなう問い合わせ

電子化されるジャーナルについて東北大学より問い合わせがあったが、これについては山下編集委員長に対応をお願いすることとなった。

4. 入退会

略

2. 2013年度大会に向けてプレ・シンポジウムが開催されました

2013年度の第25回大会シンポジウム「サービス産業の分析」の準備のために、去る9月7日（土）幹事会の後に専修大学神田キャンパスにてプレ・シンポジウムを開催しました。報告者と題は以下のとおりです。

1. 介護保険下におけるホームヘルプ労働の変化 山根純佳（山形大学）
2. 看護労働の現状と課題 小村由香（日本看護協会）
3. 流通サービス産業の労働実態と労働運動の課題 木暮弘（UAゼンセン、非会員）

4. 労働過程研究と接客サービス労働研究 鈴木和雄（弘前大学）

木暮氏は公用のためには出席できず、事前に提出された報告要旨を京谷が代読しました。各報告を受けて本番のシンポジウムに向けて内容をよりよいものに築いていくために出席者全員で意見を出し合い議論し、以下の点が要望として出されました。

①従来盛んに行われていた製造業の労働分析との違いと共通点を各自どう考えるのかを補充してほしい。（コメンテーター・大野威）

②介護と看護労働の他の販売や接客のサービス労働と異なる独自性について明確にしてほしい。

③サービス労働の主要な担い手が女性であり、女性らしさが労働に活用されている現実を踏まえてジェンダーの視点を明確にしてほしい。

④鈴木氏の提唱する生産過程の労働における2極構造（労働者－管理者）に対する接客サービス労働における3極構造（労働者－管理者－顧客）をどのように考えるのか。介護と看護における国家の位置を含めて。

⑤木暮氏の報告について。サービス労働者の組織化の特殊性および困難とそれを克服する戦略について補足してほしい（医療介護福祉部門も含めて）。できればそれらを製造業部門の組織化と比較して説明してほしい。

（文責：研究活動委員会 シンポジウム担当 京谷栄二）

以上

\*\*\*\*\*